

2 指導案 「幼児にふさわしいおもちゃと安全な環境を考えよう」

(1) 目標

- ・おもちゃや遊び場所を注意深く観察し、関心をもってそのよさや欠点を見付けることができる。
【関心・意欲・態度】
- ・遊びにおけるおもちゃの果たす役割と幼児にふさわしいおもちゃの条件について理解する。
【知識・理解】

(2) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	教師の支援・留意点 ☆評価
問題の把握	1 保育園にあったおもちゃや遊び場所の工夫について発表する。 ・おもちゃの種類や遊び方 ・幼児の体にあった机やイス ・整理整頓の工夫 ・自分たちが幼かったころとの違い 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 幼児にふさわしいおもちゃと安全な環境について考えよう </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園訪問時の様子を想起させる。 ・自分が触れ合うことのできなかった年次の幼児はどのような遊びをしていたかを知り、発達段階による違いに気付かせる。 ・第2回の保育園訪問で幼児と楽しく遊ぶために、これから製作するおもちゃに必要な条件や、遊び場所の安全と危険について考えさせる。
問題の追究	3 おもちゃを使ってどんな遊びができ、どんな能力を育てることができるかを考える。 (1) 班で話し合う。 ・おもちゃのよさ ・おもちゃの欠点 (2) 自分の班のおもちゃのよさを発表する。 (3) 他の班のおもちゃと比較して、自分の班のおもちゃの欠点を見付け、発表する。 4 安全に遊ぶための注意すべき環境について考える。 (1) 班で話し合う。 (2) 発表する。 ・ゲートを付ける ・危険なものは手の届かない所に置く。 5 幼児に与えるおもちゃの条件について知る。 ・安全で丈夫なもの ・遊びが工夫できるもの ・色や形が美しいもの ・十分使いこなせる種類や数	20 35 45	<ul style="list-style-type: none"> ・座席は保育園訪問の時の班（番号順）で座り、保育園での幼児の遊び方を参考に考えさせる。 ・おもちゃの種類によって育つ力が変わること理解させるために、たくさんのおもちゃやおもちゃの写真を用意する。 ・他の班の発表から、自分たちの気付かなかったよさを見付けさせる。 ・様々な視点からおもちゃの欠点を考えさせる。 ・おもちゃが原因で起こる事故やけがについても考えさせる。 ・保育園の写真を見ながら、安全な遊び場所の条件を考えさせる。 ・班での話し合いの場を設定することで、自分の考えに確信をもったり他の考えを受け入れたりさせる。 ☆活発に意見を出し合い、おもちゃのよさや欠点、安全な遊び場所の条件を調べることができたか。（観察・ワークシート） ・市販のおもちゃに付けられている安全マークについて紹介する。 ・おもちゃに頼らない遊びについて補足説明をする ☆よいおもちゃの条件を理解し、仕掛け絵本に生かすことができたか。（話し合いの様子・ワークシート）
まとめ	6 本時のまとめをし、次時の予定を聞く。 (1) プリントをまとめる。 (2) 今後の予定を聞く。 ・心身の発達について ・仕掛け絵本の製作について ・第2回保育園訪問について	50	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びが心身の発達の手助けになることを確認する。 ・本時の学習を踏まえて、仕掛け絵本を技術分野の作品とするだけでなく、幼児を喜ばせるためによりよいものにしようとする意欲付けをする。

(3) 評価

- ・安全性や幼児の発達段階と関連付けておもちゃの条件を説明することができたか。
【知識・理解】
- ・おもちゃや遊び場所の観察を行い、そのよさや欠点を見付けることができたか。
【関心・意欲・態度】